

福音メッセージ 予期せぬ嵐

マルコの福音書 4章 35～41節 【新改訳改訂第3版】

35 さて、その日のこと、夕方になって、イエスは弟子たちに、「さあ、向こう岸へ渡ろう」と言われた。

36 そこで弟子たちは、群衆をあとに残し、舟に乗っておられるままで、イエスをお連れした。

他の舟もイエスについて行った。

37 すると、激しい突風が起こり、舟は波をかぶって、水でいっぱいになった。

38 ところがイエスだけは、ともものほうで、枕をして眠っておられた。弟子たちはイエスを起こして言った。

「先生。私たちがおぼれて死にそうでも、何とも思われませんか。」

39 イエスは起き上がって、風をしっかりとつけ、湖に「黙れ、静まれ」と言われた。

すると風はやみ、大なぎになった。

40 イエスは彼らに言われた。「どうしてそんなにこわがるのです。信仰がないのは、どうしたことです。」

41 彼らは大きな恐怖に包まれて、互いに言った。

「風や湖までが言うことをきくとは、いったいこの方はどういう方なのだろう。」

予期せぬ嵐

(マルコの福音書4:35~41)

2017年1月15日

I 嵐の前

(1) 「その日のこと、夕方になって」(35 節)

夕方：ユダヤの暦では一日の始まり 「夕があり、朝があった。第一日」(創世記1:5)

黄昏(たそがれ) ⇒ 夜(闇が深まっていく) ⇒ 曙(あけぼの) ⇒ 昼

(2) 「向こう岸へ渡ろう」(35 節) なぜかは詳しく語られていない

「向こう岸」とは「ゲラサ人の地」(5:1) = 悪霊に憑かれた人のいる所

すべてが前もってわからないことは幸いかもしれない



II 嵐の恐怖

(1) 漁師も恐れる嵐

- 救命具なし 岸辺は真っ暗、投げ出されたら助からない
- 南北約 21 キロ、幅約 12 キロ
- 「私たちが溺れて死にそうでも何とも思われないのですか」

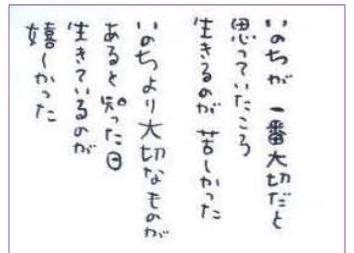
- 「自分が一番大切」 Me First 信仰(信頼)の反対
- 「私たちなどどうでもいいのか」

いのちより大切なものがある (星野富弘)：「一生懸命」は「一所懸命」より

(2) 嵐の原因 (NIV “squall” スクール)

- 自然的原因：海拔マイナス 213 メートル
- 霊的原因 (39, 40 節)

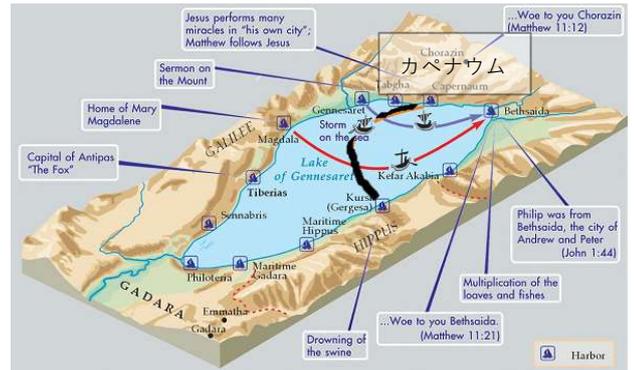
私たちがキリストの愛から引き離すのはだれですか。患難ですか、苦しみですか、迫害ですか、飢えですか、裸ですか、危険ですか、剣ですか。
【ローマ人への手紙 8:35】



(3) イエスだけは眠っていた

- 弟子たちはみなパニック
- 「とも(=船尾)で枕をして」：本格的に眠っておられた

しかし、イエスは彼らとともにおられた



1 世紀の船の復元模型

III 嵐を静めるイエス

(1) たちどころに嵐になる

(2) 主のいぶかり

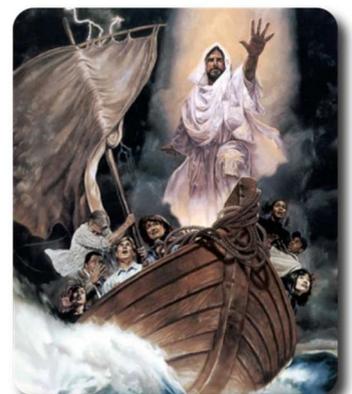
「信仰(信頼)がないのは
どうしたことです？」

主を知ることが信仰の
成長の秘訣

「風や湖までが言うことを
きくとは、いったいこの方は
どういう方なのだろう」

砂上の足跡

ある晩、男が夢をみていた。
夢の中で彼は、神と並んで浜辺を歩いているのだった。
そして空の向こうには、彼のこれまでの人生が映し出されては消えていった。
どの場面でも、砂の上にはふたりの足跡が残されていた。
ひとつは彼自身のもの、もうひとつは神のものだった。
人生のつい先ほどの場面が目の前から消えていくと、
彼はふりかえり、砂上の足跡を眺めた。
すると彼の人生の道程には、
ひとりの足跡しか残っていない場所が、いくつもあるのだった。
しかもそれは、彼の人生の中でも、特につらく、悲しいときに起きているのだった。
すっかり悩んでしまった彼は、神にそのことをたずねてみた。
「神よ、私があなたに従って生きると決めたとき、
あなたはずっと私とともに歩いてくださるとおっしゃられた。
しかし、私の人生のもっとも困難なときには、
いつもひとりの足跡しか残っていないではありませんか。
私が一番にあなたを必要としたときに、なぜあなたは私を見捨てられたのですか」
神は答えられた。「わが子よ。私の大切な子供よ。
私はあなたを愛している。私はあなたを見捨てはしない。
あなたの試練と苦しみのときに、ひとりの足跡しか残されていないのは、
その時はわたしがあなたを背負って歩いていたのだ」



乗っているのは私たち